

コンテンツ表示の未来とユーザの要求

Perspectives for the contents presentation and the needs of users

黒川 利明[†]

Toshiaki KUROKAWA

標準化活動スキル標準スタディグループ Study Group on Skill Standard for Standardization (SG-SSS)

画像電子学会国際標準化教育研究会、ICES Founder www.standards-education.org

E-mail: toshiakikr@gmail.com

1. はじめに

今回の発表のきっかけは、パナソニック株式会社が2013年4月に発売した新型テレビ、スマートビエラ、のテレビ広告が、放送局側の受け入れ拒否にあって、放映できないというニュースであった。(例えば、朝日新聞[1])

この理由については、次の2. で述べるが、ポイントは、テレビとしてのコンテンツ表示方式にあったと推測される。

これをきっかけに、画像電子学会において、コンテンツ表示のセミナーを開いてはどうかという提案をしたところ、こういう「コンテンツ表示の未来とユーザの要求」という話をするようになった。

本来なら、Google TVやApple TVなど、スマートテレビの現状を概観して、それらと、スマートビエラを比べ、どこが同じで、どこが違っているか、議論し、比較すると良いのだが、残念ながら、人の手配ができなかった。

代わりに、近未来のコンテンツ表示として、Googleグラスを取り上げてみる。その先は、間違いなく、生体埋め込みになると思っているがどうであろうか。

そういうことも含めて、未来の夢を最後にまとめてみる。

2. スマートビエラ

個人としては、パナソニック社のスマートビエラのCM騒動については、新聞報道[1]しか知らなかった。

いろいろな話を聞いたのだが、国際標準化教育に関係しているという仕事柄、参考になったのは、Yahoo!に出ていた「スマートビエラはなぜ、CMを拒否されたのか?」という記事[2]であった。

記者の大元氏によれば、拒否理由は、ARIB(一般社団法人 電波産業会)の、「地上デジタルテレビジョン放送運用規定 ARIB TR-B14」の第一分冊(2/2)[3]の、第三編 地上デジタルテレビジョン放送データ放送運用規定【第4部】Cプロファイルに関する運用規定、8. ブラウザ動作に関する運用規定の、8.1.4 混在表示

の禁止と同時表示の項目、及び、第一分冊(1/2)[4]の第二編 地上デジタルテレビジョン放送受信機機能仕様書9 解説の9.3 放送番組及びコンテンツ一意性の確保に違反しているからというのが拒否理由と推測される。

腑に落ちないのは、技術標準に違反しているのに、テレビ受像機として販売してはいけないというなら、筋が通るが、技術標準に違反しているから、コマース放送を受付けないというのは、これは、そもそも理由になっているのかということである。

もう一つの議論は、この技術標準の作成担当者は、このような事態を予想していたかどうかで、これは、関係者に聞くのが一番早いはずである。

ユーザにとっては、必要な情報が必要なときに得られるのがもっとも望ましいので、大元氏が論じているような「誤解」の危険性はあるにしても、将来の方向は、テレビであれ、ウェブであれ、外部カメラからの画像でもなんでもあれ、必要なら、関連付けて、表示されるのが当然だと思う。

3. Google グラス

スマートビエラの関連では、Google TVやApple TVでは、どういう扱いになっているかということであるが、これは、担当者に聞けばわかるし、個人的には、むしろ将来の表示装置での動きが気になるので、Googleグラスを取り上げてみた。

Googleグラスについては、様々な可能性と同時に、すでに禁止の動きがあるので、それをまとめてみた。重要な事は、Googleグラスの問題点は、撮影機能があるということ、撮影+表示というところが、非常に重要であると同時に、様々な問題を孕んでいるということである。

これで思い出したのだが、いつだったか、テレビの画面をそのままカメラにできないのかという議論があったことである。

Googleグラスは、基本的には、今のスマートフォンと同じで、メガネのレンズのところにある表示装置と、別に備えられた小型カメラで画像を撮るわけであるが、

非常にラフな近似として、人間の目と同じように、見たものを撮影記録もできるという機能を備えた初めての装置になる。

禁止事項の中で、自動車運転の禁止（同様の意味で、試験会場でも装着禁止になるだろう）を除けば、禁止理由は、撮影できるからというものである。

小型のデジタルビデオの普及で、映画撮影の現場が大きく変わったというが、Google グラスのようなものが普及することに寄って、映画のカテゴリーそのものも変化するのであろうが、撮影現場がまた一回り大きく変わりそうである。

コンテンツ表示の面でも、いろいろな可能性と問題とがありそうである。

4. まとめ

大雑把にまとめれば、常識として、次の2つは確かであろう。

- コンテンツ表示の技術進歩は止まらない
- ユーザの要求には限りがない

当然ながら、規制標準、法規規制は、どこまで有効かという議論になる。今回のスマートビエラのCM拒否騒動の真実が明らかでないので、推測で論じても余り意味がないけれども、一般論としては、Google グラスの問題にしても、同じような、人為的な規制と人々の限らない欲望との関係が問われる。

重要な事は、人為的な規制がすべて無効というわけではないということ、それなりの規制は、効果を発揮するという事実であろう。

将来のことは、色々と議論できるのであろうが、私個人から見て明らかだと思えるのは、生体工学の発展だろう。それは、ある人々にとっては福音であるだろうが、その時の可能性と、様々な騒動は、今の比ではないに違いない。それだけに、標準の立場でも、今から考えておくべきではないであろうか。

謝辞

標準化活動スキル標準スタディグループの小町祐史、高橋茂樹両氏には、草稿について貴重な指摘を頂いた。改めて謝意を表したい。

文 献

- [1] 朝 日 新 聞 2013 年 7 月 7 日
<http://www.asahi.com/national/update/0706/TKY201307060257.html>
- [2] 大元 隆志、スマートビエラはなぜ、CMを拒否されたのか？、
<http://bylines.news.yahoo.co.jp/ohmototakashi/20130707-00026255/>

- [3] 一般社団法人 電波産業会、地上デジタルテレビジョン放送運用規定 技術資料 ARIB TR-B14 5.2 版 第 一 分 冊 (2/2)
http://www.arib.or.jp/english/html/overview/doc/4-TR-B14v5_2-1p3-2.pdf
- [4] 一般社団法人 電波産業会、地上デジタルテレビジョン放送運用規定 技術資料 ARIB TR-B14 5.2 版 第 一 分 冊 (1/2)
http://www.arib.or.jp/english/html/overview/doc/4-TR-B14v5_2-1p3-1.pdf